

病院建設が動き出します



完成予想図

平成24年5月の完成に向け

金山病院の新築工事に着手

今年2月から金山町金山（かなやまサニランド横）地内で、新金山病院の建設が始まりました。

「ローコスト・ランニングコストの縮減・高機能」を整備方針に掲げる新金山病院は、建設敷地面積約2千500平方メートル、建物は免震構造の鉄筋コンクリート4階建て、延べ床面積約7千平方メートル、総事業費は約18億6千万円を見込んでいます。

新病院の1階は、患者が受診しやすいよう正面玄関側に内科・外科・小児科・耳鼻咽喉科・歯科・口腔外科など現行の10科を配置します。

市民の皆さんが参加した病院づくりのワークショップで出された意見を踏まえ、健康管理部門の健診室、救急医療に対応する処置室を設置するとともに、一般外来、救急、健診ごとに入口を設置します。

2階には、透析室（10床…現行から5床の増）やリハビリ室などを配置。南向きの特

徴を活かし、明るく、広いスペースで機能回復訓練を行うことができます。

3階、4階は病棟とし、3階は一般病棟50床、4階は療養病棟49床を配置。一般病棟の病室は、各室に洗面とトイレを、療養病棟の病室には、洗面を設置します。また療養病棟内には機械浴を設置するほか、各病棟に食堂兼デイルーム・相談室などを整備します。

ベット総数は、現行の113床から99床に縮小しますが、療養病棟を充実することで、慢性疾患により、長期療養を必要とする患者の療養環境の改善を図ります。駐車場は周辺施設との併用で約150台となります。

新病院の建設により、保健センター、かなやまサニランド、ゆったり館、リバーサイドスポーツセンターの周辺施設を活用した医療・保健・福祉・健康ゾーンを結びつけた環境が整うこととなります。

新たな『生活の場の医療』



完成予想図

県立下呂病院（仮称）

3月から造成工事が始まります

県は平成26年度上期の開業をめざし、県立下呂病院（仮称）の建設に取り組むため、3月から下呂交流会館上段にあたる建設予定地の造成工事に着手します。

新しい下呂病院（仮称）は、敷地面積約3万4千平方メートル、建物は免震構造の鉄筋コンクリート5階建てで、延べ床面積は約2万平方メートル。総事業費として約95億円を見込んでいます。

内科など23診療科（下表参照）を配置。病床数は230床でうち約9割を個室化し、プライバシーの保護やスペース拡大による介助のしやすさを高めます。駐車場は約550台（150台増）。

飛騨南部の中核病院として急性期医療の機能強化を図り、屋上にヘリポートを備えて岐阜地域等の高度・先進医療機関との連携強化を図ります。

また、地域医療・へき地医療の拠点的功能を充実させ、

検診医療と地域診断機能を担うとともに、診療所との連携を図り、「生活の場の医療」の構築を図ります。

建設される県立下呂病院（仮称）診療科構成

内科（内科・腎臓内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・内分泌内科）、小児科、外科（外科・消化器外科・胸部外科・心臓血管外科）、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、リハビリテーション科及び専門外来（女性専門外来、ストマ外来、助産師外来等）〔※東洋医学科は院内診療所へ移行〕

づくりへ 一歩前進

医師会長から、新病院建設の思いを聞きました。



下呂市長 野村 誠

医療環境整備から 中長期的な医療ビジョン策定へ

市民の長年の念願であった市立金山病院と県立下呂病院（仮称）の建設が始まります。

市立金山病院は、下呂市南部の地域医療、療養、救急医療の役割を担う市立病院として位置づけ、ローコスト・ハイクオリティーな病院を目指していきます。

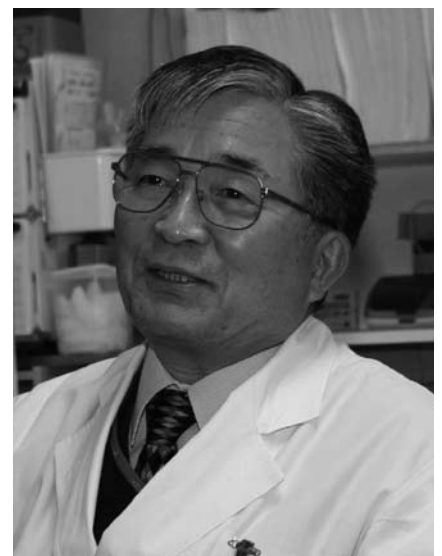
一昨年来、プロポーザルを行い、市民の皆さまにもワークショップに参加していただくなど、よりよい病院づくりを目指してきました。2月から建設工事に着手し、完成は平成24年5月を予定しています。

県立下呂病院（仮称）は、3月から敷地造成工事に入り、平成26年度上期開院を目指しています。市では、アク

セス道路の整備やコミュニティバスの運行など最大限の協力をしていきます。

市民の命と健康を守る2つの病院建設により、さらに充実した医療環境が整うことになりませんが、将来にわたって地域医療の拠点としていくためには、市民の皆さまのご支援とご協力は不可欠です。

市では、医師会等のご協力をいただき、医師や看護師等の医療スタッフを確保するための各種制度の創設、予防接種の助成などを行っていくとともに、中長期的な医療ビジョン策定についても、両病院長をはじめ医師会の皆さまのご指導をいただきながら取り組み、安全・安心なまちづくりを進めてまいります。



市立金山病院
院長 古田智彦医師

地域の皆さんと作り上げてきた新病院

地方病院は地域住民の支えがなければ維持できません。また、自治体が病院を設立し地域に医療を提供するという意識や、一時しのぎに利用するというような意識が病院の閉鎖を招いてきた一因でもあることを認識しなければなりません。これらのことを考えながら地域の人たちとワークショップなどで作り上げてきた病院建設への思いが、やつと実現します。

ことから、本来あるべき機能の充実を図るために建設するものです。

金山病院は県立下呂温泉病院と補完し合い、市内の医療を支えるためにあります。

また今後、当院の療養病床は入院医療を必要とする慢性疾患に対応するために、ますます重要な役割を果たすものと考えられるので、49床に増床し、療養環境の改善を図ります。

受診者はどの病院でも同じ診療費を負担しているのですから、新病院では、出来る限り同等の療養環境が提供できる病院づくりを目指していきます。

新築する金山病院は、診療規模の拡大を目指すものではありません。現在の病院では現行の医療体制を維持するにはあまりにも旧式となり、よりよい療養環境の提供、効率的な職場環境が損なわれている

安心・安全なまちづくり

市長、市立金山病院長、県立下呂温泉病院長、市

50年後も存続する病院を目指して

平成20年12月、知事は下呂

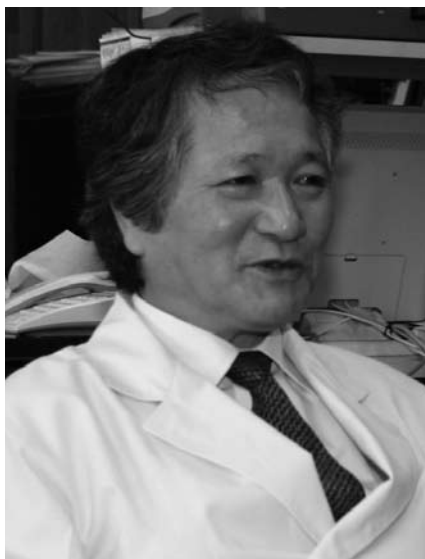
ります。

地域の医療を支える中核施設として、新病院建設を表明いたしました。ここに至るまでには紆余曲折があり、今回の決定は多くの関係者の苦勞の賜と考えております。

現在の病院は、建設から40年以上が経過しており、施設の老朽化、狭隘化が進み患者さんにもご迷惑をおかけしてきました。新病院の建設により、一層充実した医療の提供が可能となりますが、建物だけでなく、病院スタッフのスキル及びサービスの向上にも努めてまいります。これは私の永年の夢であり目標でもあります。

医療を取り巻く環境は益々厳しさを増していますが、困難な状況下でも、地域住民に温かい医療を提供し、50年後も存続する病院を目指し、職員一丸となつて新病院の設計を行つていきます。末永く下呂地域の医療を守る病院の象徴として、「コウヤマキ（秋篠宮家ご長男悠仁様の御印）」を植樹することも考えております。

新病院に対する皆さんの期待を日々肌で感じながら、今後も心のこもった「生活の場の医療」の提供に努めてまいります。



県立下呂温泉病院
院長 山森積雄医師

市民の皆さんと共に、地域医療の再構築を

いよいよ金山病院と県立下呂病院の新築移転に向けて、工事のスタートが切られ、平成18年に旧町村ごとに行われた市民フォーラムを皮切りに、地域の皆さまと共に考え行動してきたものが、一步現実になつてきます。

開院した時に、さらなる医師不足のために開店休業の憂き目に会つてはなりません。勤務医も開業医も、誠心誠意、診療に励むことは言うまでもありませんが、それだけでは医療崩壊を防ぐことはできません。地域医療を再生するための本場の主役は、市民の皆さんと行政です。これからの少子高齢化の時代、医療を大切にというよりも、育てる取組みが定住促進の追い風にもなると思います。医療崩壊は地域崩壊の一側面であり、医療再生は地域再生に通じます。

その一方で、現在の医療崩壊の原因となつていく医師不足は相変わらずです。とりわけ病院勤務医、特に中堅の先生方が少なくなつてきていることが大きな問題であり、勤務医が仕事を充分できる環境にするためにも、外来診療は開業医が担当すべきものであり、開業医の多くは、それまで公的病院、専門病院で高度の診察をされてきたわけですから、それぞれの専門分野の対応は充分できます。病院が

両病院の新築、移転を好機ととらえ、地域医療体制を再構築すべく、市民の皆さまと共に住みやすい下呂市をつくってまいります。



下呂市医師会
会長 大塚正議医師